

みやぎ東日本大震災津波伝承館が県内の伝承ネットワークの拠点とした情報発信の強化及び来館者を他の震災伝承施設に誘うゲートウェイとしての役割を担うという機能の強化に向けて、令和4年度については、以下の取組を実施する。

A 来館者等への県内伝承施設の案内及び期間限定の展示等

- ①「語り部からのメッセージ」等常設展示の解説を通じ、来館者に県内で活動する語り部や県内の震災伝承施設、震災遺構を紹介する。
- ②常設展示スペースにおいて、期間限定展示を実施
イ 県内震災遺構を紹介するパネル設置等
ロ 県内震災遺構の視聴VRグラス設置
ハ 防災学習用PC、ディスプレイ設置
- ③伝承団体、伝承施設のパンフレット・冊子等を館内に配架し、来館者が自由に閲覧できるようにする。
※配架するパンフレット等作成費用について、県で補助する。(上限10万円, 補助率1/2)
- ④モニターを活用した案内、来館者が他の施設等を検索できるパソコンの設置



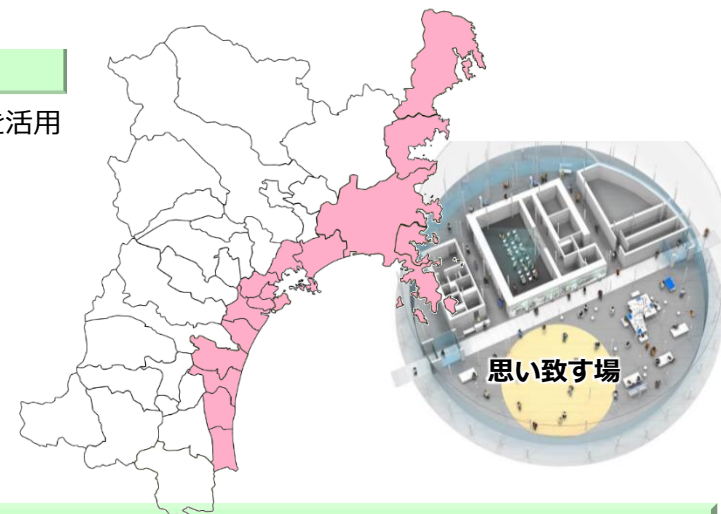
B 東北大学災害科学国際研究所等と連携した思い致す場の活用

宮城県と東北大学（災害科学国際研究所）が令和4年3月に締結した包括連携協定の枠組みを活用し、以下について多様な主体が連携して実施する体制を構築する。

- ①定期体験講話（土日の各日午前・午後2回ずつ：年40日、計80回程度を想定）
※半数は他会場からのオンラインを想定
⇒来館者を他の震災伝承施設に誘うゲートウェイとしての役割
- ②企画展示（年4回程度）
※他の伝承施設や伝承団体が保有するパネル等を活用する。
※別途、県内学校の児童生徒を対象とした「みやぎ災害伝承ポスターコンクール」の入賞作品を展示する。
- ③活性化事業
イ 親子向けイベント
ロ ジュニア解説員制度 ※募集の上、随時伝承館で活動してもらう
ハ 3.11のげんば探訪
※復興過程の現場における様々な活動について、主に実務者による講話を行う。
ニ 3.11まなび直し塾 ※大学教員等専門家による講義
- ④伝承館における情報の蓄積とアーカイブ機能の強化
①～③の取組（映像発信）のアーカイブ化等

<成果とりまとめ>

- ・持続的にゲートウェイ機能を発揮し続けるための提言
- ・語り部が代々続くための提言（次年度取組の提言）
- ・沖縄（戦争）や広島（原爆）の伝え方も踏まえたものに



C デジタルを活用した情報発信の強化

- ①オンライン伝承館の構築
伝承館の展示動画等について、HP等でも公開することにより、情報発信の強化及び学校等の震災学習への活用
- ②DXによるゲートウェイ機能強化の検討
民間企業等と連携し、利用者の行動分析から、デジタルを活用した利用者の伝承施設周遊ルート構築等の可能性を検討